



2月の「ふるさとくまさんデー」は熊本市から！

2月の「ふるさとくまさんデー」のメニューは、熊本市にゆかりのある「ミルクパン、タイピーエン、れんこんサラダ、いきなりだんご」でした。「いきなりだんご」の名前の由来は諸説ありますが、お客様が突然来ても、いきなり（すぐに）作って出せるところからその名がついたとか、さつまいもを生のまま直接使うところから「生きなりだんご」になったとか・・・様々です。熊本市では、天明地区でれんこんが多く収穫されているそうです。タイピーエンについては皆さんよく御存知ですよね。中国福建省の家庭料理がルーツと言われ、明治時代に日本に来た華僑の人々から伝わったそうです。今月もたいへんおいしくいただきました。



前途洋々

第3回校内人権集会（みなみっ子集会）を開きました

17日（木）の3・4時間目、第3回目の「みなみっ子集会」をリモートで実施しました。今回は、各学級代表が作文発表をし、その発表に対して各自お返しをしていきました。学習のあとに、じっくり考え抜いて綴られた作文ということもあり、各自の考え方や思いが凝縮されたものであると同時に、再度、全員で確認したいことが多く含まれていました。子供たちの作文で多く出ていたことは、「決めつけで判断したり行動したりすることはいけない」（いわゆる偏見）ということ。これは、「生まれたところがどこか」ということで差別をする「部落差別」にも通じるところです。また、「日常の中で、相手に自分の気持ちをはっきり伝えることの大切さ」も出了しました。私からの話の中では、「皆が過ごしやすい環境、安心して過ごせる場所は、人の努力で創られるものであり、『自分は関係ない』という考えは、集団としての力を弱めてしまう」というようなことを話しました。うれしかったのは、各クラスからの、発表に対する「お返し」がとても充実していたことです。子供たちは自分の考え方や経験を入れながら、たくさん「お返し」をしてくれました。現在の学年もあとわずかとなりましたが、今回子供たちが読んでくれた作文の内容について、再度、皆で考えながら過ごしていきたいと思います。



自分のクラスから、他の学年に向けて、カメラ越しに作文を読む子供

冬來たりなば春遠からじ～ 春はもうすぐ・・・

「冬來たりなば春遠からじ」・・・御存知のとおり、「つらい時期を耐え抜けば、幸せな時期は必ず来る」というたとえ。長い冬を耐えて春を待つ気持ちの表現としても用いられる」ということですが、まさにそのことを願う心境です。毎日大きく変動する新規感染者数に、トンネルの出口は見えるのか、という気持ちになってしまいます。そんなとき、ある先生から、「校内に『松竹梅』が見えるスポットがありますよー。」とお聞きし、駐車場に行ってみると、なるほどそのとおり。写真では見えにくいのですが、左から、松・竹・梅が並んでいます。この素敵な風景を眺めながら、冒頭の言葉を思い出したところです。日々、明るい希望を持って生活したいですね。

